

『明治女礼式双六』について

山本 祥子

日本近代礼法は明治初期に黎明期を迎えた。明治中期には男子の礼法教育に続いて女子の礼法教育の必要性が注目されるようになり、当時の小笠原家当主であった小笠原清務らの尽力により、女子のための礼式、すなわち女礼式が普及した。

こうした礼法の普及過程において、出版メディアは重要な役割を果たしていたと考えられる。明治5年の学制公布後、学校制度の整備に伴って礼法教育のための教科書が相次いで出版され、その機運のなかで「小学女礼式第一」をはじめとする女子を対象とした教科書や解説書もいくつか登場した。このような教科書類は主に学校教育の場で使用されて礼法教育に貢献したが、その一方で、家庭教育に供するためのメディアも数多く出版され、礼法を伝えていた。しかし、日本近代礼法史を扱った研究のなかでも家庭向けに出版されたメディアに焦点をあてた研究は少なく、特に遊び絵を対象とした研究は見当たらない。

本研究の目的は、女礼式をテーマとする遊び絵の一種である明治女礼式双六の特徴を明らかにすることである。この目的を達成するために、筆者は綿抜研究室が所蔵する明治女礼式双六10点を調査対象として、絵双六の各コマを分類、整理し、出現数を調査した。分類には「小学女礼式第一」の項目を参考にし、項目の出現数の比較から、明治女礼式双六が「小学女礼式第一」から受けた影響を明らかにすることを試みた。調査に際して、資料保存と利用促進のために調査対象資料をデジタル化・データベース化し、Web上で絵双六のコマ画像を検索できるデータベース検索システムを構築した。

調査の結果、明治女礼式双六は他の絵双六で見られるようなステップアップ型の構成を持っておらず、娯楽性の低い遊具であるということが明らかになった。また、内容については、「小学女礼式第一」とほぼ同じ項目名で扱われたコマが少なからず見られた一方で、「小学女礼式第一」では全く扱われていなかった諸芸などに関する項目が取り上げられていたことがわかった。以上の結果から、明治女礼式双六は娯楽的目的よりも教育的目的を強く意識した遊具であり、「小学女礼式第一」の影響を受けながらも、絵双六の対象である若年層の女子の実生活や興味をより強く意識したメディアであったということが示唆された。

今後の課題としては、コマの画像の注釈作業、外部所蔵資料を調査対象に含めての資料研究、データベース検索システムのユーザビリティ向上などが考えられる。

(指導教員 綿抜豊昭)